

セミナー開催報告

件名：JICA 研究所ナレッジフォーラム (第3回)

人的資源開発の未来にむけた課題～デジタル化、AI、途上国、雇用の未来～

【質疑応答の主な内容】

Q1. 今後 AI の加速度的な普及が見込まれるが、その程度は予想困難である。将来に向けて我々には何が出来るか。

A1. (井上准教授) AI が普及した社会においては如何に再配分を行えるかが鍵となるが、独占・寡占企業がタックスヘイブンに逃れることがないように、国際的な協調が必要となる。独占・寡占企業を解体していくべきという見方もあるが、企業の一層の強化は回避できない可能性もある。いっそ独占状態を否定せず、大半の人々が再分配によって得た所得で遊んで暮らす社会を受け入れるくらいの価値観の変容が求められているのかもしれない。

(山口教授) 若者の教育が重要。我々は、10年後、20年後の社会で生き抜くにはどのような技術が必要か若者と共に考え、それを身に着けられるよう育てていくべき。これは政治の義務でもある。

Q2. 一口にアフリカと言っても、国ごとの開発の度合いは大きく異なっていると思うが、それについてどう考えるか。

A2. (神職員) ルワンダのように IT 投資で成功した国もあれば、エチオピアのようにインターネットへのアクセスに制限のある国もある。アフリカ諸国においても AI を活用する技術を伸ばしていく必要があるが、大半の人々は IT 技術や AI に生活上直接関わらない。そういった人々に対してどういう教育をしていくべきかは未だ答えのない問いであるため、今後も模索していきたい。

Q3. 議論すべきは、AI が人間を幸福にするのかどうか、どのように使えば幸福にするのか、という点ではないか。AI の脅威ばかり取沙汰すべきではない。

A3. (井上准教授) 私は敢えてネガティブに聞こえる言い方をしている。というのも、ここで強調したいのは、社会的な制度を変えていかなかった場合に如何に困ったことが起こり得るかを自覚すべき、という点だからだ。AI が出てきたら自動的にベーシックインカムが導入されるというわけではなく、今後予想される一層の AI の普及に対応するためには、それ相応の努力をしなければいけない。人類の長い歴史を振り返れば、個人がそれぞれ合理的に意思決定したにもかかわらず、社会全体では合理的にならなかったということがある。農耕技術の導入で人類はより不幸になったと言われている。将来を見据えて、如何に事前の対応策が打てるかが肝要。

以上